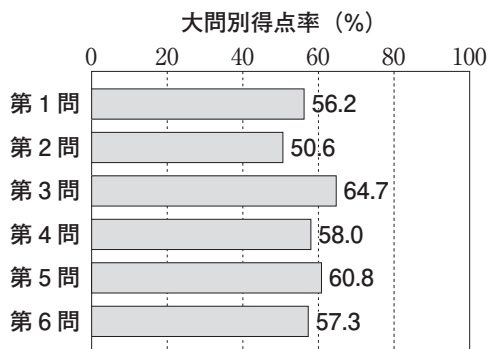
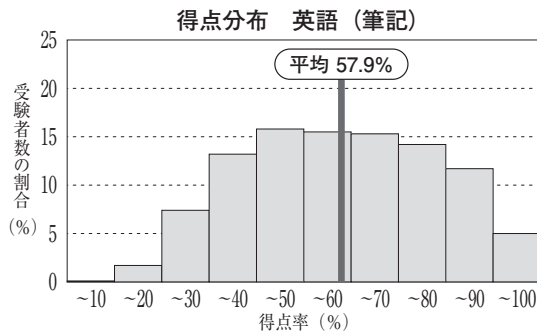


英語 (筆記)

前半で効率よく解答し、余裕を持って後半に備えよう。

I. 全体講評

今回のセンター試験本番レベル模試の平均点は115.8点であった。前回よりかなり伸びており、ここまでは順調な推移を示しているようだ。今回も第2問の得点率がやや低かったが、ここでは短い英文でありながら、文法だけでなく、語彙も含めた総合的な力が試されている。その意味ではまだまだ改善の余地が多いようだ。また、特に第6問では無回答率が依然として高かった。最後のほうは時間的な余裕を失っていたということであろうが、これは英文を読む（そして、もちろん理解する）速さと関連し、読む速さは語彙力と関連している。毎年のものであるが、この問題は時間とともに徐々に解消されていくであろう。しかし、そのための積極的な努力は不可欠である。まだまだ先は長いので、多読を通じて着実に語彙のレベルアップをしていこう。



II. 大問別分析

第1問 発音・アクセント

アクセントの傾向を掴み頻出語を復習しよう！

今回の第1問の得点率は56.2%で、平均的な出来と言えよう。内訳を見ると、Aの発音問題が平均で64.8%、Bのアクセント問題が49.7%と、やや差が見られた。Aでは問2がわずかに正答率50%を下回ったが、Bでは問3が30%台、問4が20%台で、この2問が大きく影響してしまった。問3はアクセント問題に頻出する単語ばかりであり、問4も基本的なアクセントの傾向に従えば解答できるものが主体だったので、日頃からこのような傾向を意識して音読をしていれば、少なくとも選択の幅を狭められたはずである。常にアクセントの位置にも注意して英語の音声を聞き、真似してもらいたい。

第2問 文法・語法・整序作文・応答文完成

文法の知識を整理し、応用力を高めよう！

今回の第2問の得点率は50.6%で、すべての大問の中で最も低かった。内訳は、Aの文法・語法・語彙問題が48.5%、Bの整序問題が56.2%、Cの応答文完成問題が48.5%だった。全体的に見ると、さほど大きな差はなかったと言える。いつものことながら、Aでは小問によって出来具合がかなり違う。最も正答率が低かったのは問1で、dance to it (=music) のtoを補う問題だった。「~に合わせて」を意味する前置詞toの用法を問うものだが、半数以上の人々が④onを選んでいて、sing to the pianoなどの表現にも使うtoなので、ここでしっかり覚えておこう。問2ではthose present (出席者) という決まり文句を知っているかどうかを試されたが、正答率は30%弱にとどまった。問5も30%台だったが、ここは〈主語+be動詞の省略〉がポイントである。今回の結果を見ると、まだまだ文法力に不安があるようだ。また、Cの応答文完成問題にも正答率が30%台の小問があったが、ここでも鍵を握るのは文法力である。この分野に不安のある人は復習を怠らないでほしい。

第3問 文脈把握(対話文空所補充・文削除・要約)**全体的に安定して得点できていた！**

今回の第3問の得点率は64.7%で、すべての大問の中で最高の成績だった。内訳を見ると、Aの会話問題が72.9%で、不要文削除のBが53.1%、意見の要旨を選ぶCは70.7%と、相対的にはBがやや低かったが、総じて安定していた。小問別の正答率を見ても、Bの1問目が40%台だった以外は、いずれも50%台から70%台の範囲内で、バランス的には申し分ない。どのパートについても、間違えた箇所があれば、各自で解説を参照しながら見直してほしい。ここでは、会話、説明文、意見発表など、様々な種類の文が素材となっているが、どの形式であろうと試されているのは文脈把握力であり、それは日頃の読解作業を通じて養う他はない。

第4問 説明文と図表・説明文書などの読み取り**説明文の全体的な主旨と流れに注意しよう！**

今回の第4問の得点率は58.0%で、平均的な成績であった。図表を含む説明文を素材としたAについては、全体の平均が56.2%、広告文書を素材としたBは60.4%だった。特に不出来だった小問はなかったが、正答率が40%台の箇所がAに2問、Bに1問あった。そのうちの1つであるAの間3は文全体のテーマを答えるもので、もう1つの間4は最終段落に続くべき内容を推測させる設問である。これらは数年前から登場したセンター試験特有のものである。他の設問では細部の情報の読み取りが求められるのに対し、文全体の流れをつかむことが解答の前提となる。過去問や本模試を通じて十分に習熟しておきたい。

第5問 物語文の読解**この調子でさらに高得点を狙おう！**

今回の第5問の得点率は60.8%で、ますますよくできていた。小問別正答率もわずかに50%を切った問題が1つあった他はすべて60%台と非常に安定していた。特別読みにくいストーリーではないので、じっくり取り組むことができれば、おそらくさらに上の結果を期待できるであろう。いつものことだが、このあたりから無回答率が徐々に高くなっていく。終盤に至るまでの過程でいかに効率よく解答できたかが問われることになるだろう。今後は解答の効率性を高め、この大問をより確実な得点

源にしてもらいたい。

第6問 説明的文章の読解**十分な時間をかけられるようにしよう！**

今回の第6問の得点率は57.3%で、今回の全体の得点率に近かった。この大問としては悪くなかったと言えるだろう。小問別正答率を見ると、最後のBのみが惜しくも30%台に終わったが、それ以外はすべて50%台から70%台にあった。当然ながら、この大問では時間的制約の影響が最も大きい。無回答率は大問中最も高くなっている。これまでも述べたように、まだこの段階では全問を解くだけのスピードが身につけていない人が多いが、時間的な余裕さえあれば、決して難しい問題ではない。今後効率のよい解き方を覚えるにつれて、この最後の大問でも得点を伸ばしていくことが期待される。

Ⅲ. 学習アドバイス

今回は第4問について述べておこう。この大問は、グラフや表とそれに関連する説明文を用いたAと、広告文・掲示文などを用いたBの2題からなる。Aの素材文はさまざまな分野の統計データや調査結果を基にした客観的な説明文であり、それに補助資料としてグラフや表が加わる。このような資料を説明するのに用いられる英文は、正確性、客観性を重視した固い文章語となるのが通例である。ここでは本文と選択肢の厳密な読み比べが求められるので、精読の訓練は欠かせない。苦手な人はセンター試験の過去問や今後の本模試を通じて習熟してもらいたい。

Bの素材は広告文書などの特殊なものである。普通の読解問題のように、本文を最初から順を追って読まなければ理解できないというものではなく、文書の目的とおよその情報の内容や配置がわかれば、細部のすべてに目を通す必要はない。解答に必要な情報を見つけるために、まず設問文を読むのが得策である。また、この問題には金額などの数値情報が含まれるのが通例であるが、それをもとにして今回のように簡単な計算を求める場合が多い。「素早く、あわてず」と言うのは簡単だが、それが理想である。これについても多くの練習を積んで対応能力を高めてほしい。